

2012年度 森泰吉郎記念研究振興基金 「研究育成費」 成果報告書

「コンゴ民主共和国大学生の家族に対する価値観と家族像に関する調査」

政策メディア・研究科 修士課程2年

プログラム：CB

代田 有佳理

1. 概要・目的

本研究は、コンゴ民主共和国の大学生が捉える家族・家族観を調査することを目的としており、現地における人間関係構築との関連性や重要行為についての考結び付けていくことを目標としている。現在のアフリカ研究の多くは伝統的な部族に焦点が当てられており、“現代”の人間模様について考察されているものが少ない。従って、本研究は近代化に伴う都市部に暮らす大学生の意見を通して、現代におけるアフリカ・コンゴ民主共和国の家族像を考察する一事例という位置づけとして行うものである。

2. 日程・方法

【フィールドワーク@コンゴ民主共和国】

期間：2012年8月21日～2012年9月18日

内容：アンケート・インタビュー・ディスカッション

【コンゴ大学生3名との共同生活@日本】

期間：2012年10月13日～2013年1月2日

内容：参与観察・インタビュー

3. 活動報告

- ・ 地方では「結婚年齢は低く、子たくさん」という傾向があり、都市では比較的「結婚年齢は高く、子どもは少なめ」という傾向がある。
- ・ 「親戚」という言葉は存在せず、家族内の垣根は低い。
- ・ 血縁関係よりも、関係性の深さを重視している。

以上は、コンゴ人大学生の意見から得られた家族意識・家族観の一例である。調査結果からは、伝統的なアフリカの部族意識が現代の学生の意識にも根付いていることが伺えた。また、家族であるために、相手との関係性（信頼関係）を重視しており、それは、愛情表現を可視化した「共有」という行為を繰り返すことで深まることが明らかとなった。

4. 今後の展望

今回の調査を終え、コンゴにおける家族像の一部を具体的に調査・考察することが出来た。今後の展望としては、日本人とコンゴ人の家族に関する価値観の比較調査を行なうこと、また、コンゴ社会の家族化という仮説を軸とした研究に結び付けたいと考えている。